どこにいるかな？
探そう！
気になるいきものたち

調査結果

どこにいるかな？
探そう！
気になる
いきものたち

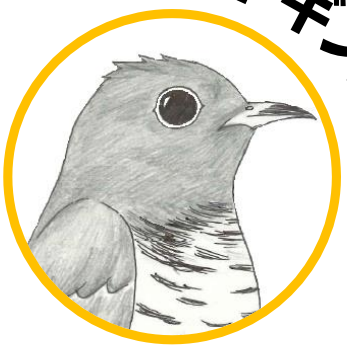
なかなか出会えないレアな生き物、市内での分布状況に注目したい生き物、特定外来生物など、「気になる」生き物を集めた企画です。
今年もたくさんの情報をお寄せいただき、ありがとうございました。
また、今年は独自に気になる外来植物を調査した方からご報告をいただきましたので、番外編として掲載いたしました。
引き続きこれらの生き物たちを気にかけていただけますと幸いです。

発見報告のあったメッシュは、地図上の該当箇所にピンとメッシュコードで示してあります。

19-63

【今年の気になるいきものたち】

ホトトギス

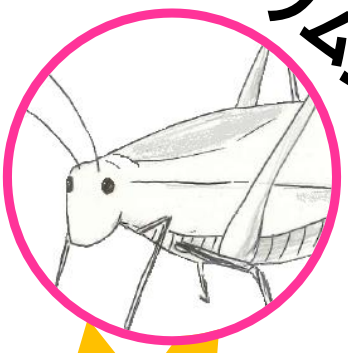


ノアザミ

ミゾコウジュ

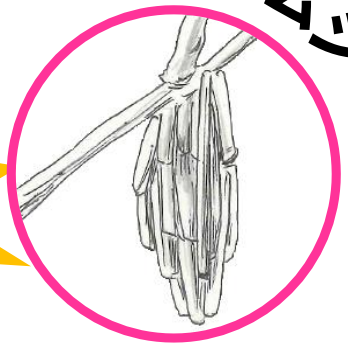
マシジミ

クツワムシ



ミズスマシ

ミノムシ



クビアカツヤカミキリ

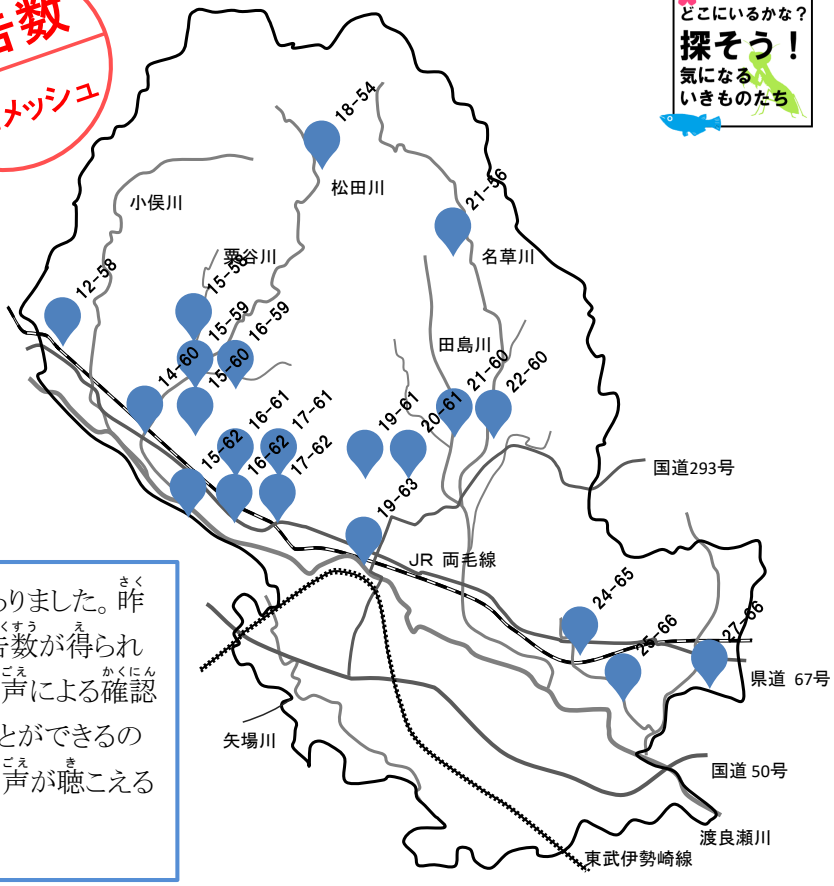
番外編：
オオキンケイギク
ナガミヒナゲシ

ホトトギス

報告数 21メッシュ

観察適期：5月～10月

5月下旬頃渡ってくる夏鳥。
カッコウの仲間で、ウグイスなどに托卵（自分の産んだ卵を他の個体に育てさせること）する習性がある。
鳴き声による確認がしやすい鳥。平野部でどのような分布があるか注目したい種。



調査結果・コメント

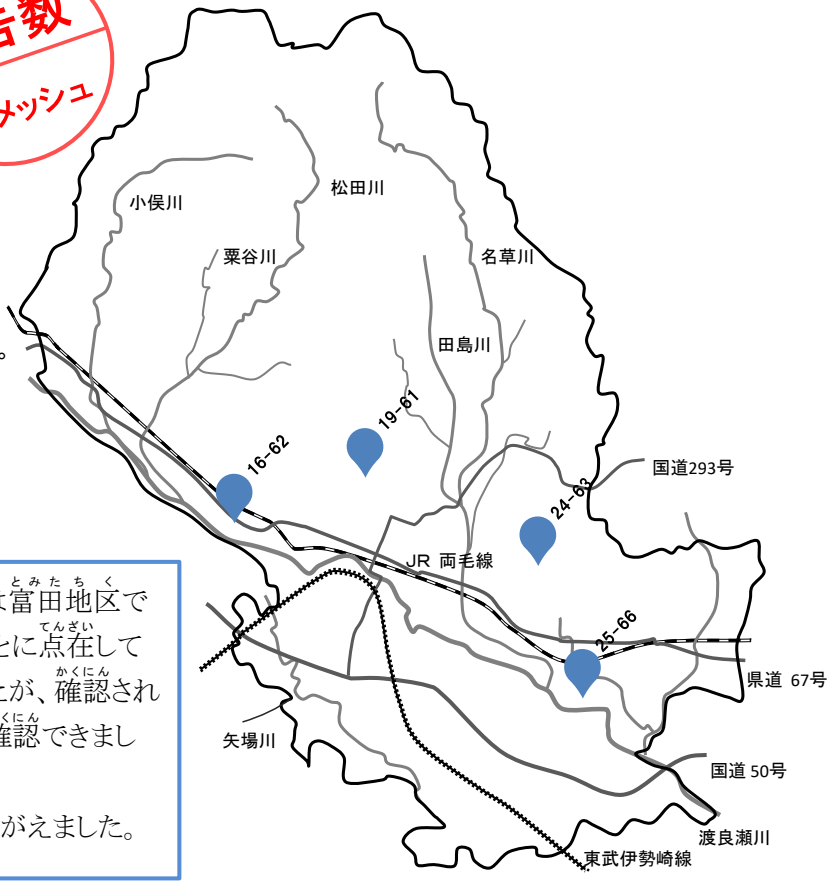
今年も主に河北地域から21メッシュの報告がありました。昨年より3メッシュ少なくなりましたが、安定した報告数が得られていると思います。今年も報告のほとんどが鳴き声による確認でした。5月下旬頃から特徴的な鳴き声を聴くことができるので、今年報告のなかったメッシュでも来年は鳴き声が聴こえるか気にかけてみてください。

ミゾコウジュ

報告数 4メッシュ

観察適期：（花）5月～6月

環境省 準絶滅危惧種。市内数か所で確認できる。
シソ科の越年草で、5～6月に淡紫色の小さな唇形花（唇のような形をした花）をつける。
この先どのメッシュで増え、また減っているか注目したい種。



調査結果・コメント

昨年度の調査では確認数6カ所のうち5カ所は富田地区でした。今年度は4カ所の確認でしたが、1カ所ごとに点在して広い範囲で確認されました。私も調べてみましたが、確認されたメッシュとは別のメッシュで飛び飛びに5カ所確認できました。
準絶滅危惧種ですが、やや健在の様子がうかがえました。

ノアザミ

報告数 9メッシュ

観察適期：（花）5月～6月

花が晩春から夏（５～６月）にかけて咲き、総苞（花の下の緑色になっている部分）に触るとネバネバしている点が特徴。

アザミは種類が多いが、この２つの大きな特徴があるので誰でも判別ができる。

市内の分布状況に注目したい種。

調査結果・コメント

昨年度の11メッシュより2メッシュ少ない確認数でした。野原や路傍などで見かけるノアザミですが、低山の登り口等でも見られますので、結構広い範囲で見つけられると思います。

花にはとげがありますが美しい花ですので、ぜひ探してみてください。5月～6月頃に出会えて、総苞が粘っていれば、まずノアザミと思って間違いないでしょう。

クツワムシ

報告数 3メッシュ

観察適期：8月～秋

激レア昆虫。かつては河原にたくさんいたが、クツワムシが好む草地がなくなり数が激減した。

昨年、市内で数年ぶりに生息が確認された。

翅の先まで50mmくらいある大きな虫で、ガチャガチャとたいへん大きな声で鳴く。

調査結果・コメント

昨年と同じ3メッシュの報告がありました。昨年と同じメッシュは一ヶ所でここには確実に生息しています。昨年報告のあった河南地域を調べましたが確認できませんでした。栃木県の絶滅危惧種ですので、ご連絡いただければ確認に行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

ミノムシ

報告数 13メッシュ

観察適期：年間

レア昆虫。かつてはたくさんいたが、
最近見られなくなってしまった。
木にぶら下がっており、中に蛾（ミノガ）の
幼虫がいる。メスは一生を蓑のなかで過ごす。
一年中おり、庭木などにもいる。

調査結果・コメント

昨年は16メッシュ、今年は13メッシュで共通するのは5メッシュでした。これをどう理解したらよいのかわかりませんが、昨年同様足利市では結構いることがわかりました。

全国的にはミノムシに寄生するハエの影響で減少しているようですが、増え始めているところもあるようで引き続き経過観察が必要と思われます。貴重な情報ありがとうございました。

マシジミ

報告数 7メッシュ

観察適期：5月～6月

淡水の河川の砂やどろの底にすむ二枚貝で食用になる。
ふつう、シジミと呼んでいる。
古くなると貝殻の頂上部分が白くはげ落ちる。
マシジミとよく似たタイワンシジミ種群が侵入して
分布を拡大しており、マシジミは絶滅の危機にある。

調査結果・コメント

発見場所が限定されてきている傾向は変わりませんが、発見場所が広がりつつあるように思います。観察方法を工夫していただいている結果が出ていると考えられ、発見にチャレンジしていただいた方々の努力に感謝したいと思います。各地点ごとに種類がどうなっているか、比較することも興味深いと思います。

ミズスマシ

報告数 2メッシュ

観察適期：5月～9月

だ円形でつやのある黒色をした6mm程度の昆虫で、
池や沼などのほか、流れの比較的弱い場所に住む。
水面を振動させると回転運動をはじめる。
冬は岸に上がって、枯草の間などで冬眠する。
見つけるのはとても難しい。

調査結果・コメント

2メッシュで発見されました。今年もやはり見つけにくかったようです。しかし、ここ数年チャレンジしていただいた方々の観察のレベルが上がっていることを感じます。きれいな水、または豊富な水量がある場所を中心に、令和3年度も調査にチャレンジしてほしいです。

クビアカツヤカミキリ

報告数 76メッシュ

【特定外来生物】

中国・朝鮮半島・ベトナムなどが原産の外来生物。
幼虫がサクラ、ウメ等バラ科の樹木の内部を
食い荒らしフラスと呼ばれる木くずと糞が
混ざったものを排出する。被害を放置すると、
被害木が枯死してしまう恐れがあり、
駆除が必要な虫である。

※特定外来生物のため、
許可なく
・生きたまま運ぶこと
・飼育・保管すること
・野外へ放つこと
が禁止されています。

調査結果・コメント

昨年度は被害の少なかった市北部・西部にも被害が拡大し、26メッシュも増加してしまいました。被害木も昨年の倍以上となり、加速度的に被害が拡大している状況です。

私たちが慣れ親しんだ風景からサクラやウメなどが無くなってしまうのを避けるため、ぜひ今後も成虫・フラスの発見報告や駆除にご協力をお願いいたします。

※クビアカみっけ隊の皆さんからの報告、市民の方からの報告も合わせた結果です。

オオキンケイギク 番外編

報告数 44メッシュ

【特定外来生物】

北アメリカ原産の多年草で、
コスモスに似た黄色い花を咲かせる。
1880年代、観賞用、緑化用として導入された。
繁殖力がとても強く、国内の自生種に大きな影響を及ぼす恐れがあることから、2006（平成18）年に特定外来生物に指定された。

レポーターからのコメント

彦谷川、松田川、渡良瀬川などの堤に多い。家の花壇に植えられているものもある。市役所の敷地内にも見受けられた。

貴重な調査のご報告をいただきありがとうございます。調査していただいた範囲にかなり分布が広がっている様子が分かります。オオキンケイギクはコスモスに似た可愛らしい花が咲くので、特定外来生物と知らない人も多いと思います。この調査結果をきっかけに、オオキンケイギクを気にしてくださる方が増えることを願っています。

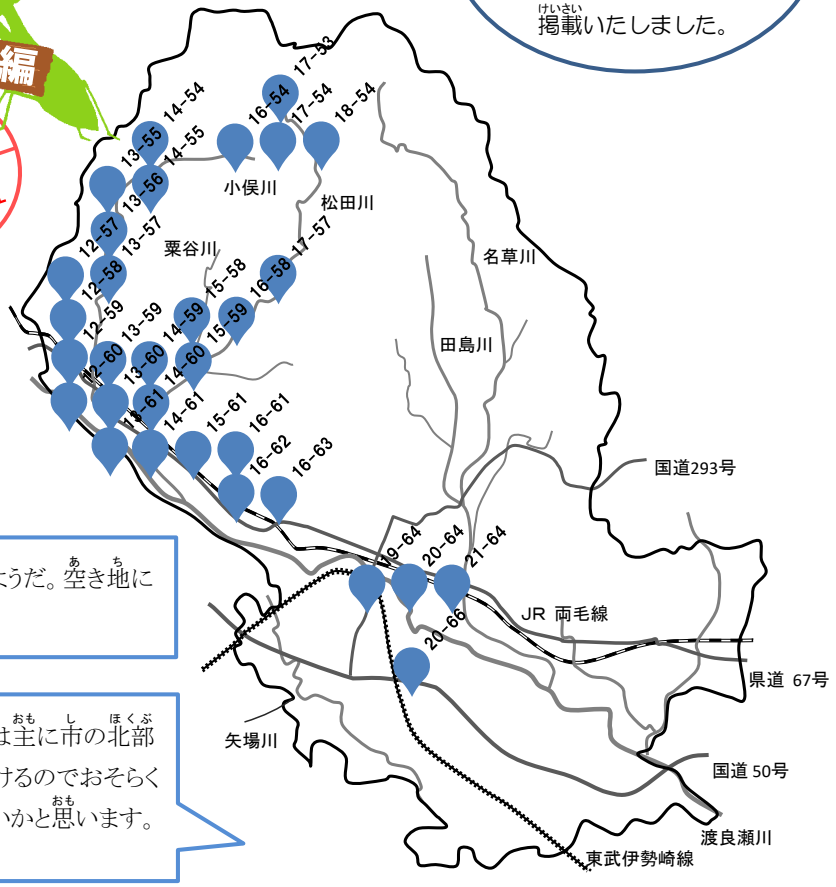
※他のレポーターからも発見報告がありましたので、メッシュ数を合計して掲載しています。

このほか、ハルシャギク、アメリカオニアザミについても調査していただきました。
結果は新・珍発見報告に掲載いたしました。

ナガミヒナゲシ 番外編

報告数 31メッシュ

地中海沿岸原産のケシ科の一年草。
4～5月頃にオレンジ色の花を咲かせる。
土壌の種類を選ばず、繁殖力がとても強い。
駆除対象となる特定外来生物等には現在のところ指定されていないが、この先分布がどのように変化・拡大するか気を付ける必要がある。



レポーターからのコメント

道路沿いに多く、庭に侵入していても気にしていないようだ。空き地にも侵入し拡大している。

こちらもご報告ありがとうございます。お調べ頂いたのは主に市の北部～西部とのことですが、私も道路沿いのあちこちで見かけるのでおそらく南部・東部でも同じように分布が拡大しているのではないかと思います。今後も引き続き気にかけていただければと思います。

※他のレポーターからも発見報告がありましたので、メッシュ数を合計して掲載しています。